

本市の防災・減災対策

未来そうま
鈴木一弘議員



問 防災訓練の実施について問う。

答 できる限り早期に図上訓練を実施したいと考えている。

東日本大震災以降、より強固な防災体制確立の方針のもと、様々な施設が整備されたが、近年の自然災害は想像以上に大変な対応が求められると感ずる。

自然災害の発生は防ぐことは出来ないが、被害を最小限に食い止めるためにも、早期に総合防災訓練をすべきと考えるが実施の経過について問う。

問 防災訓練の実施について問う。

答 市は、平成20年度及び平成21年度に図上訓練を実施し、東日本大震災における住民への避難広報・誘導生存者救出、関係機関への

要請、避難所開設、物資調達などの初期対応を迅速かつ果敢に行う上で大いに役に立ったものと思っている。

現在、東日本大震災からの復旧・復興が概ね計画どおり進捗していることから、図上訓練をできる限り早期に実施すべく、準備を進めたいと考えている。

問 自主防災組織との連携・支援の現状について問う。

答 自主防災組織が防災訓練を実施する場合、市は相馬消防署と連携し、訓練内容の指導や支援の説明、水、缶入りパンなどの備蓄品の提供、炊き出し材料への助成などを

行っている。さらに、平成29年度に防災訓練を行った5団体であったことから、市は行政区長会

総会や役員会の場において、自主防災組織の役割や訓練支援内容等の説明とあわせ、自主防災組織による防災訓練の実施を依頼したところである。



平成29年度に実施された自主防災組織における防災訓練（岩子地区）

健康で笑顔のまちづくり

問 元気で活動する市民への奨励・支援策について問う。

答 市民との協働という理念にもとづき、市民の参画に努めていきたい。

東日本大震災の発災以来、本市は各方面から多大な支援をいただき、着実に復旧・復興と創生を歩みだした。しかし、津波による被災と放射能事故という特異な精神的負荷が市民に生じている。

8年目の現在、健康で笑顔のある市民像を中心にした相馬づくりを目指すべきではないかと考えるが、現状とこれからの対応について問う。

問 元気で活動する市民への奨励・支援策について問う。

答 市内ひとり暮らし高齢者等の訪問声かけを行っていたいただいているひ

まわり会をはじめ、松川浦環境公園や相馬市郷土蔵、パークゴルフ場などのスポーツ施設の管理、

尾浜地区の新たな公園など、高齢者が参加する形での運営方法を検討しているところである。

市は、今後とも、目的が明確であり、かつ社会性がある必要な事業実施に際しては、市民との協働という理念にもとづき、高齢者を初めとする市民の参画に努めてまいりたい。

問 保健センターの移転改築について問う。

答 現在の保健センターは、供用開始から30年ほど経過しており、床、エアコン、玄関の自動ドア、多目的トイレなどが破損、故障した際にその



そうま維新
荒秀一議員

ど経過しており、床、エアコン、玄関の自動ドア、多目的トイレなどが破損、故障した際にその都度修繕して対応してきたが、耐震性が保たれており、今後も適切に修理、改善を重ねながら継続して使用する方針である。



昭和63年から共用が開始された保健センター（中村大手先地内）